

< 機械・農作業の共同化に取り組む事例 >

## 作業用機械の共有による営農環境の整備

### 1．集落協定の概要

市町村・協定名	青森県 <small>ひろきまし</small> 弘前市 <small>だいがい</small> 大貝			
協定面積 62.7ha	田 (94%)	畑 (6%)	草地	採草放牧地
	水稻	りんご		
交付金額 485万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員手当	水路・農道整備	12%
		共同機械購入	多面的機能増進	5%
		会議費等		16%
				13%
				4%
協定参加者	農業者 114人			開始：平成12年度

### 2．取組に至る経緯

大貝集落では、以前から「高齢化や担い手不足」のため、将来の農地の適正な管理が危ぶまれていた。

地域の水田は不整形の上水路等も整備されておらず、大雨等によりたびたび被害を受けていたことから、早期復旧やその費用について農業者の負担軽減のため、制度の第1期から取り組んでいる。

### 3．取組の内容

営農環境改善のため、農地や水路、農道の小規模な整備・補修に対応できる集落の体制を以下のとおり進めている。

農地等の管理に必要な機械の導入。

機械の維持は協定参加者及び住民から、貸し出し賃料を貰って維持管理費に充てる。



【役員会】

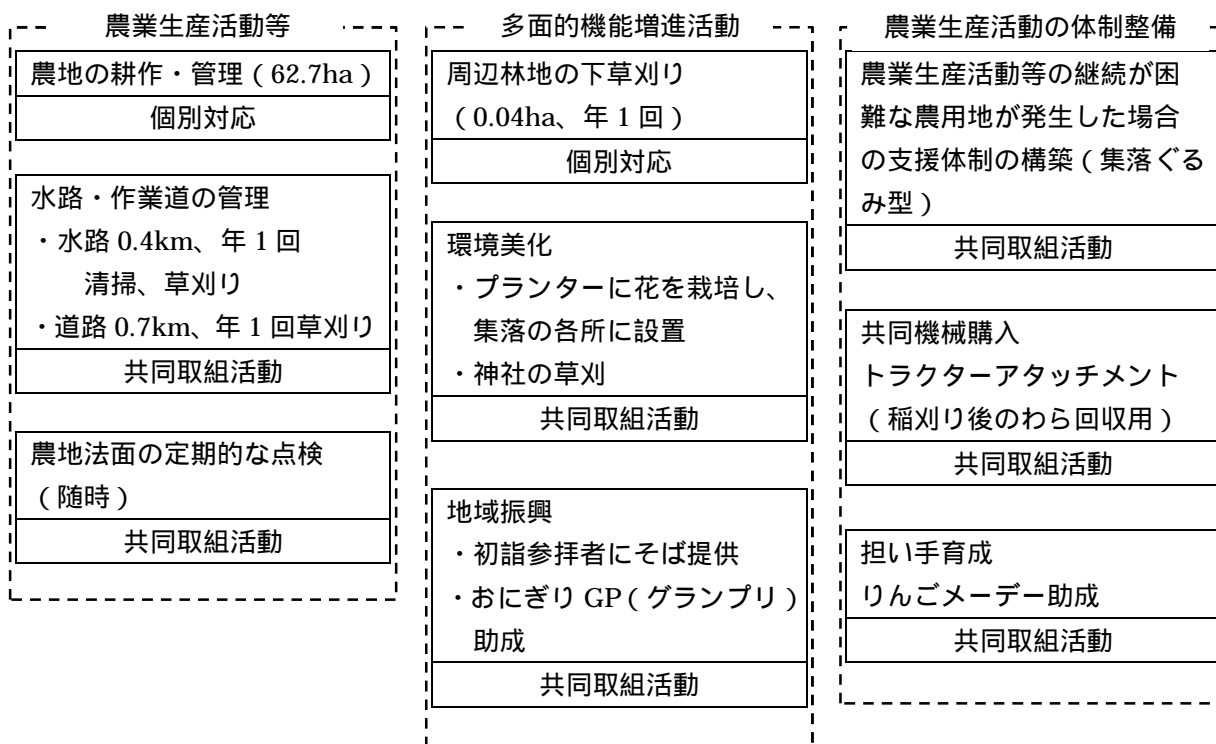


【共有機械による泥上げ作業】

[ 集落の将来像 ]  
 集落ぐるみの農業生産活動等体制整備



[ 将来像を実現するための活動目標 ]  
 協定参加者の需要に合わせて、作業用機械の導入を進める。  
 住民が親しみを覚える地域となるよう、イベントの充実等を図っていく。



#### 4. 今後の課題等

年々、所有する機械の修理費等が高み運営費を圧迫してきており、体制を維持していくためには所有台数や賃料について検討する必要がある。

また、利用者の操作技術のばらつきが機械の損耗を早める一因となっているため、講習会等により大切な共有財産であることの意識を高め、操作技術を一定の水準まで高めていく。

#### [ 第2期対策の主な成果 ]

- ・機械導入  
 平成17年 薪割り機  
 平成18年 トラクター、畔塗機  
 平成21年 自走式カッティングロールベラー
- ・地元神社の初詣参拝者にそばの振る舞い開始
- ・地域のイベント「おにぎりグランプリ」を地元町会と共同企画